足利赤十字病院　Japanese Red Cross Ashikaga Hospital

地域に根差す、足利赤十字病院の広報誌

風流鯨

ーかぜながすくじらー

ご自由にお持ち下さい
Take Free

2021.10 Vol.35

- 副院長就任挨拶（五十棲 一男）
- 診療科紹介〈麻酔科〉
- 新型コロナワクチン集団接種
- 新型コロナウイルス注意喚起
- 千羽鶴寄贈
- 手指消毒剤寄贈

TOPICS
- 活動報告&お知らせ
- 栄養課の窓
- 臨床検査の豆知識

副院長 就任のご挨拶

今後とも、皆さまの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

関連大学と共同した専門医の育成や病診・病病連携の推進に注力していきます

副院長 兼
健診センター長 兼 第一脳神経内科部長

五十棲 一男

2021年9月1日付けで副院長を拝命しました五十棲です。1984年慶應義塾大学卒で、1997年3月に足利赤十字病院に赴任し（神経内科部長）、24年目になります。今年はコロナ禍により無観客でオリンピック・パラリンピックが行われる異例の年となり、院内職員もコロナ対応で多忙な毎日を送っています。一日も早い終息を祈るばかりです。

赴任当時は脳梗塞の画期的な治療法はなかったのですが、2005年にt-PA（血栓溶解療法）が認可され、急性期治療の幕開けとなりました。2010年には血栓回収療法が認可され、2011年7月、足利赤十字病院は旧病院から移転して新病院での診療が始まりました。脳梗塞以外においても、近年の脳神経内科領域の治療法の進歩は目を見張るものがあります。

私は2020年4月1日付けで健診センター長 兼 第一脳神経内科部長となり、人間ドックの仕事を始めました。現在、火曜日に脳神経内科ともの忘れ外来、およびHIV（外国人を含む）の診療を行っており、他の曜日は人間ドックの仕事をしています。

少子高齢化や医師の偏在、働き方改革、診療報酬の抑制もあって、医療機関を取り巻く環境も大きな変革期を迎えています。髙橋副院長、平野副院長、古泉副院長、沼澤副院長補佐とともに室久院長をサポートして、これらの問題に取り組んでいきたいと思います。患者さんのために精進し、当面は対外的な仕事をということで、関連大学と共同した専門医の育成や、病診・病病連携に力を入れたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

診療科紹介

麻酔科

Anesthesiology

副院長兼第一麻酔科部長
高橋健一郎

副院長兼第一麻酔科部長を務めております高橋です。今回は皆様には馴染みの薄いかもしれない、しかし手術となったら欠かせない医療行為である麻酔を主な業務としております麻酔科について、最近の取り組みとCOVID-19対策を中心にご紹介いたします。

①麻酔法について

当院の常勤麻酔科医は現在6名、うち5名は機構専門医（さらに2名は麻酔科学会指導医）です。経験豊富なスタッフが最新の麻酔薬とモニター機器を駆使して安全な麻酔管理を第一に取り組んでいます。

また、術直後の痛み、嘔気・嘔吐、せん妄などを軽減するために様々な工夫も行っています。術後痛については、従来からの静注薬や経口薬そして硬膜外鎮痛法の他に、痛みの程度に応じて柔軟に対応できる注入器を用い、点滴から投与するiv PCA(intravenous patient-controlled analgesia)や超音波ガイド下の神経ブロックなどを併用または使い分けて、より多角的に対処していこうという流れになっています。

②COVID－19対策について

患者様には術前2週間の健康観察チェック表をつけていただき、全ての患者様にCOVID−19核酸検査を実施しています。緊急手術では、短時間で結果の判明するCOVID−19抗原検査と核酸検査を併せてスクリーニングしています。

標準予防策として、麻酔科医は気管挿管や抜管時にはフェイスシールドとPPE、手袋を着用します。COVID−19陽性あるいは疑いが強い場合は、さらにエアロゾルボックスで患者様の上半身を覆い、飛沫の飛散と吸入を防ぎます。

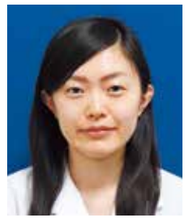
接触感染予防としては、各手術室の出入り口や麻酔器周りに擦式アルコール消毒を配備し、WHOの提唱する5つのタイミングでの手指衛生を遵守しています。

手術室スタッフとともに、医療者や医療行為を介した患者さまへの院内感染を絶対起こさないよう細心の注意を払って麻酔管理を行っておりますので、今後とも安心して当院での治療を考えていただければ幸いです。

第二麻酔科部長
星野　豊

第三麻酔科部長
半谷圭一郎

医師
福島 祐樹



医師
中曽根千草

医師
石川　愛

医師
佐藤真利子

新型コロナワクチンの接種促進に協力

当院は足利市の集団接種に協力しています。地域の皆様が少しでも早くワクチンを接種できるように、本年7月より講堂を接種会場として提供し、医師や看護師などの有志職員が接種業務に尽力してきました。

ワクチン接種は感染収束への第一歩であり、ひいては皆さまの健康を守ることに繋がります。集団免疫の獲得に向け、引き続き新型コロナワクチンの接種促進に協力して参ります。

▲集団接種会場の様子

▲ワクチン接種の様子

感染対策を心掛けましょう

現在、新型コロナウイルス感染症は収束傾向にありますが、引き続き感染対策を心掛けましょう。

新型コロナウイルスに感染しないための注意事項

1 旅行や帰省は慎重に判断しましょう。
可能な限り、人が集まる場所への往来は控えましょう。

2 同居家族以外との宴席は控えましょう。
会食時はマスクを外す機会が増えるため、飛沫感染のリスクが高まります。会話をする時はマスクの着用を心掛けましょう。

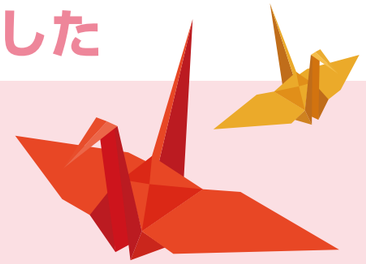
3 適宜、手指衛生を行いましょう。
うがい・手洗い・アルコール消毒は、新型コロナウイルスに対する重要な感染対策です。適宜行うよう心掛けましょう。

4 自身と家族の健康管理を徹底しましょう。
家庭内感染を防止するため、毎朝の検温・体調管理を行いましょう。

5 自治体等の出す情報を適宜確認しましょう。
常に最新の情報が発信されています。感染状況を把握することも感染対策に重要なことです。こまめに国や自治体等から発信される情報を確認しましょう

**3密のうち、1密でも感染のリスクがあります。
地域一体となってこの事態を乗り越えていきましょう。**

千羽鶴をご寄贈いただきました



9月3日（金）、五十部町にお住まいの斉藤理恵子様より千羽鶴を三束ご寄贈いただきました。

斉藤様は、これまでにもクリスマスやハロウィンの折に小児科病棟の子どもたちへプレゼントを贈られています。今回は新型コロナウイルス感染症への対応に疲弊する当院職員を応援するため、三千羽もの鶴を折ってくださいました。

当院へのお心遣いに職員一同心より感謝し、この場をお借りして御礼を申し上げます。新型コロナウイルス感染症の収束に向け、引き続き安全・安心な医療の提供に努めて参ります。

室久俊光院長（左）と斉藤理恵子様（右）

▼寄贈された千羽鶴

手指消毒剤をご寄贈いただきました

9月9日（木）、天然基礎化粧品・入浴剤などを手掛けるシーラン株式会社様（足利市問屋町）より手指消毒剤をご寄贈いただきました。

当日は、佐々木理衣代表取締役と増茂好孝顧問より感謝の手紙が読み上げられ、室久俊光院長へ手指消毒液240本が手渡されました。

室久院長からは「新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たず当院職員も疲弊していますが、皆さまの支援が励みとなり何とか頑張ることができています。今後も地域の皆さまの健康を守るため、職員一同努めて参ります。」と御礼の言葉が伝えられました。

▲感謝の手紙を読み上げる様子

▲佐々木理衣代表取締役（左）と室久俊光院長（右）

活動報告&お知らせ

Report & Information square

活動報告 敬老の日に記念品を贈呈

9月17日（金）、敬老の日イベントを開催しました。当院では毎年敬老の日に合わせ、75歳以上の入院患者さまへ記念品を贈っています。

コロナ禍で面会禁止を強いられ、入院患者さまは大変つらい思いをされています。そのような状況にあっても、患者さまに少しでも笑顔になってほしい、前向きな気持ちで入院生活を送ってほしいという想いを込め、今年度は各病棟の看護師長より対象患者さまへ記念品のハンドソープが手渡されました。

▲記念品が贈呈された様子

記念品を受け取った患者さまは『このような催しがあって本当に嬉しい。一日でも早く退院できるように頑張りたい。』と笑顔で話されました。

未だ同感染症の収束は見えませんが、患者さまの心が少しでも軽くなり、病気と闘う前向きな気持ちになっていただけるよう職員一同努めて参ります。

活動報告 野球部がMLBドリームカップ関東地区代表決定トーナメントで優勝しました

【画像提供:MLBドリームカップ運営事務局】

当院野球部は、9月25日（土）～10月16日（土）に行われたMLBドリームカップに出場し、栃木ブロック予選で優勝、続く関東地区代表決定トーナメントに栃木ブロック代表として出場し、見事優勝を果たしました。この大会は、全国約1,000チームが日本一をかけて熱戦を繰り広げる国内最大規模の軟式野球大会です。この結果を踏まえて、11月に開催されるMLBドリームカップ東日本代表決定戦に関東地区代表として出場することが決定しました。

▲MLBドリームカップ関東地区代表決定トーナメントで優勝を果たした野球部

MLBドリームカップ栃木ブロック予選

1回戦	BABIES	○ 2 対 1
準決勝	Dタイタンズ	○ 3 対 2
決　勝	野木POPEYES	○10対 4

MLBドリームカップ関東地区代表決定戦

1回戦	Eques96（群馬県代表）	○ 4 対 1
2回戦	クーニンズ（千葉県代表）	○ 3 対 2（延長8回タイブレーク）
準決勝	ボンクラクラブ（山梨県代表）	○ 2 対 1
決　勝	ちゃんぷるーず∞（埼玉県代表）	○ 1 対 0（延長8回）

◀関東地区代表決定トーナメント 準決勝で先制スクイズを決める黒田（則）

▲関東地区代表決定トーナメント 準決勝で特大本塁打を放つ柏瀬

活動報告 職員を対象に献血を実施しました

9月28日（火）に、当院職員を対象とした今年度2回目となる献血を実施しました。今回は、74名の受付者のうち70名の職員が献血に協力することができました。次回は令和4年1月25日（火）に実施する予定です。引き続き当院職員は献血活動に協力していきます。

▲献血会場の様子

コロナ禍において当院の講堂を利用した一般の方を対象とした『オープン献血』が開催できない状況ですが、栃木県血液センターでは献血バスを県内各地で運行しており、同センターのホームページでスケジュールを掲載しております。血液が不足する状況が続いておりますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

活動報告 救護員養成研修を実施しました

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動であり、日本赤十字社定款には救護業務を遂行するにあたり、「救護員を確保し、その養成訓練を行い、救護材料を準備するほか、救護に関する組織及び装備を整備すること」と規定されています。

また、日本赤十字社防災業務計画に災害救護活動を円滑に実施するため、「すべての職員に対して災害救護に関する研修や訓練を実施する」とあることから、災害救護活動に必要な知識と技術を修得するために救護員養成講習を行っています。

▲研修の様子

10月7日（木）に隣接する五十部公園で実施された『基礎研修Ⅱ』では、基本的実技として「基礎行動」「救護員個人装備」「救護資機材の運用」を30名の職員が学びました。当院は、救護班を三個班常備していますが、現役の救護班要員から、エアテント設置からの救護所設営や、担架搬送、無線機による通信、発電機を用いた投光器の設営など実際の災害時と同じ資機材を使用し訓練を受けました。参加者全員が長時間の研修にも関わらず、疲れを感じさせない真剣な面持ちで臨み、終了後のレポートには赤十字職員として訓練を受けた充実した想いが多く綴られていました。今後も指定公共機関として災害時に迅速な対応できるよう研修を行っていきます。

今号の表紙　千羽鶴を寄贈:斉藤理恵子さま（右）と室久俊光院長（左）

栄養課の窓 大麦特集

栃木県の麦は二条大麦、六条大麦、小麦の三種類が栽培されており、特に足利市の六条大麦の生産量は全国の市町村でも上位にランクインしています。

★大麦の栄養成分の特徴

精麦したものでも精白米よりも多量の食物繊維が含まれます。
特に水溶性食物繊維の含有量に優れており、血清コレステロール低減作用や腸内細菌叢の改善が確認されています。日本人の食物繊維摂取量は年々低下傾向にあるので積極的に摂取したい栄養素の一つです。また、その他の栄養素としてビタミンはB1、B2、B6、ナイアシン、葉酸、ミネラルではカリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、リンを比較的多く含みます。

★大麦の種類

日本では「秋播き製品種」がほとんど。秋に種子を播き、越冬して成長し、初夏に収穫されます。麦粒の列数で二条大麦と六条大麦に大きく分けられます。

二条大麦:ビール麦ともいわれ大粒で発芽力が高く、たんぱく質含有量が低いのでビールや焼酎等の醸造用原料に使われる。

六条大麦:精麦してそのまま米と混炊できる。精麦後食べやすくした押し麦と白麦がある。味噌(金山寺みそや麦みそ等)、醤油などの発酵食品としても利用される。

?今話題のオートミールって?

「oats」と「meal」を掛け合わせた英語。脱穀して食べやすく加工したオーツ麦のことで、日本名では燕麦(エンバク)や、からす麦とも呼ばれています。南西アジア原産で、寒冷地域で栽培され主にヨーロッパで朝食として利用されます。全粒穀物であり、胚芽などが未精製の状態で加工されているため他の精製した穀物よりも栄養(食物繊維・鉄・カルシウム)が豊富に含まれているのが特徴です。

豆知識 大麦と小麦の名前の由来は、種子の大きさの違いではない!

以前の日本では、小麦よりも大麦のほうが食糧として重要であったためと言われています。大麦は、環境適応性が高いため水利が悪い地域などでも生産され、あわやひえとともに庶民の主食として重要な穀物でした。

いつものお好み焼きにプラスで腸活!

材料[2人分]

- 薄力粉……70g
- オートミール……30g
- 水……100㎖
- お好みの具材(エビ・イカ等)
- 調味料(ソース、かつおぶしなど)
- 卵……1個
- キャベツ……200g
- 豚肉……適量

■栄養成分(1人分) 341kcal たんぱく質 17.8g 脂質 6.2g 炭水化物 52.5g 食塩相当量 0.2g 食物繊維 5.5g

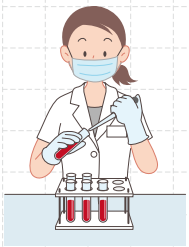
1. キャベツ(粗みじん切りか千切り)・豚肉を切る
2. オートミールを水に浸す(目安5分程度)
3. ボールに粉と卵を入れ、良く混ぜる
4. ❸に❶❷、お好みの具材を入れ混ぜ合わせる
5. フライパンに油をひき中火で熱する
6. 生地を入れ、両面を焼く
7. 器に盛り、好みの調味料で味付けして完成

管理栄養士 高橋 智慧

臨床検査の豆知識

輸血検査

輸血検査の業務は安全な輸血を行うため輸血用血液製剤が患者さんに適合するかどうかを見る検査です。



血液型検査	ABO式とRh式を検査します。Rh式血液型は陽性と陰性に分けられます。日本人のRh陰性割合は約0.5%です。
不規則抗体検査	輸血や妊娠によって産生される抗体で、陽性の人は輸血の際に注意が必要です。
交差適合試験(クロスマッチ)	患者血液と輸血用血液との間に抗原抗体反応が起こるかを検査し、輸血後に起こる副反応を未然に防止するために行う検査です。

Q どうして輸血が必要なの?

A 病気や薬の影響などで十分に血液を作ることができなくなったり、事故や手術などで大量出血したりしたときに輸血が必要です。輸血しない場合は、息切れや動悸、めまいなどが起こったり、出血が止まらなかったりして、最悪の場合生命に危険がおよぶこともあります。

足利赤十字病院
Japanese Red Cross Ashikaga Hospital
〒326−0843 栃木県足利市五十部町284−1
TEL: 0284−21−0121 FAX: 0284−22−0225 ホームページ http://www.ashikaga.jrc.or.jp/
広報誌「風流鯨」Vol.35／令和3年10月29日発行 編集・発行／足利赤十字病院広報委員会